

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット星)

事業所番号	2770600423		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホームあびこ		
所在地	大阪府泉大津市我孫子150		
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果市町村受理日	平成30年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域の大切な資源であるとの観点から、積極的に地域への参加に重点を置き、その中で家庭的な雰囲気や快適に日常生活を過ごしていただくことは素より、ご入居者様と共に社会の一員であるとの自覚から、ともに近隣、地域の中に帰っていただけるようご入居者様と作り上げていくことを大きな目標としております。「認知症カフェ花水木の会」地域で介護に困っている方の少しでもお役立ちたい！認知症を患っておられる方 家族 サポーター 介護従事者などいろんな人が繋がる場です。地域包括支援センターと共同で3か所開催しています。
 ①泉大津商店街 風街…毎月1回第4週水曜日 ②紅俳院ハマダ…毎月1回第2金曜日 ③愛の家グループホームあびこ…偶数月第2土曜開催。「愛の家グループホーム通信」も地域にむけて発行しより多くの人に認知症の理解と、いつまでも住み慣れた地域で暮らして頂けるように活動しています。市民フォーラムにも講師として参加し、グループホームも住み慣れた地域で暮らす住居として紹介させて頂きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、クレドは、職員一人一人に配布のうえ、朝礼時に唱和し、ケアの考え方の基軸になり、具体的な実践の取り組みに繋っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域における年間行事への積極的な参加。 ・地域内の一斉清掃 ・盆踊り大会 事業所における地域への貢献 ・地域交流祭 ・餅つき ・花火大会 ・認知症カフェ及び相談会等々		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の定刊誌「愛の家通信」各事業所及び地域包括へ設置いただく。また、認知症サポーター講座を中心に 地域へ認知症理解を普及している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進会議を開催。 自治会及びご家族様、行政、時にはご入居者様を交えて、ホーム現状報告及び関連する事項にはアドバイスを踏まえたうえで、今後のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーター講座、行政が主の相談会、認知症カフェにおいては、地域包括支援センター、高齢介護課等が積極的な参加の元、双方の協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関については、他業者が入居している関係上施錠しているが、GH本体である各フロアの入口への施錠は行っていない。また、身体拘束等についても、定期的な研修に則り、職員一人一人が日常的なケアについて、カンファレンスなどで振り返る機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な事例など研修の機会を設け、職員一人一人が意識を持ち虐待防止に努めている。また2か月毎に、虐待・不適切なケアチェックシートを作成し、各人が念頭に置きながらケアに努められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家からの研修、外部研修などを推進しているが、現行は知識不足なところが否めない。今後の課題として、包括会議等に率先して参加したうえで、外部研修へも積極的に参加を促していくよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間をかけ、一つ一つ丁寧に説明を行っている。その中ででた疑問、質問にも都度丁寧にお答えし、その場で疑問解消に努めている。また、1章毎に確認同意をいただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、ご家族様アンケートを実施。アンケート結果での要望、改善点等を掲示したうえで、各人へ送付させていただく。また、ご家族様ご面会時にコミュニケーションをとりながら 具体的な要望など聞けるような関係づくりに努めサービスの向上に繋がる取り組みをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、ユニット会議及びリーダー会議を基軸に、職員の意見及び提案を聞く機会を設けたうえで、意見、提案を具体的に形にするにはどのような取り組みをしたらよいかを、スタッフ間との共有で、迅速な対応の改善等につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にやりがいがあるよう、ユニットにて目標を掲げ、個々的には、個人面談を行い課題と目標を決め、面談時に進行状況また、困りごとなどを聞くよう努めている。その延長線上で、スタッフが自ら職場環境及び整備等に係わってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、全体にて研修を行っている。また、法人による初任者研修参加補助制度を活用して、無資格者への研修の呼びかけを積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・認知症サポーター研修及び地域包括会議への参加、運営推進会議等での意見交換、近隣施設からの訪問などの活動などを通してサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の細かなアセスメントを基軸にし、生活歴、趣味、嗜好などを会話を通しながら、ご本人様の要望を聞かせていただけるよう努め、不安な気持ちには、1:1での寄り添いながら、不安軽減に努めていきながら人間関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式をご家族様にも協力いただき、早い段階でご本人様の性格など具体的にお聞かせいただくよう努めている。併せて、ご家族様の希望、要望とも事前に聞かせていただくうえで、変化に合わせ都度情報を共有しながら関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の日常生活を基盤としながら、ご本人の様子からどのような支援が必要かを、スタッフ間で共有し、カンファレンスでの話し合いを重ねたうえで今後の関わり方に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作を中心に、洗濯、食器洗い、買い物などを通して、今できることを楽しみながら行ったうえで、共同生活を共にする者同士助け合いながらできるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	急変時はもちろん、小さな変化でも、電話にてご報告、また面会時には小さなことも含め都度都度お伝えしている。ホーム独自に定期的にお手紙、写真なども送らせていただきながら、理解を深めることでご家族様との関係も築いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚の方が面会に来られたり、また住み慣れた町の盆踊りや自治会行事へは個別に職員同行の元積極的の参加し、ご本人様が築かれてきた人間関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由な席、会話がしやすい席などを工夫して、相互間での距離が短くなるよう、スタッフが間に入るなどの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居後に、ご本人様の様子を伺いに行ったり、またご逝去によりご退去された方宅へは、節目節目に弔問させていただきながら、ご家族様のなやみの相談ができる環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を基軸に、週単位でのカンファレンスをもとに、職員との会話、関わりの中からご本人様の思い、希望、移行などを日常的な情報の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をはじめ、ご家族様から情報を収集し、過去の生活歴、暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた身体能力、また気分の変化など都度カンファレンスをもとに、細かな気づきを大切に、よりよく過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1ベースでのカンファレンスの実施。ご本人様、ご家族様、看護師、かかりつけ医、スタッフの意見をもとに介護計画を作成。大きな変化が発生した時には、緊急カンファレンスを行い、ご本人の思いの変化及び行動の変化を早々に介護計画の見直し、反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、週及び月ベースのモニタリングを記入し実践や気づきをスタッフ間で共有し、その人らしさを引き出せる介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の変化等は、面会時にお知らせ頂きその時に必要なサービスを工夫しながら、既存の支援にとらわれないよう努めている。その際、重要にしているのは、何ができるのか？をみなで考え柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各方面のボランティアのかたがたは素より、地域のスーパーまたは商店街で、一人での買い物ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応し、常に細かな変化への情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化でも、かかりつけ医及び看護師に報告し支持を仰いでいる。かかりつけ医+看護師+スタッフでのタイムリーな情報の共有に努めて、速やかな対応ができるよう かかりつけ医との連携が履かれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には必ず付き添い、また病院へも2日に1回は訪問するよう努めているとともに、担当医との話し合いには必ず同席させていただき、早期に退院できるよう伝えている。病院関係者の方々とも、医師会の会合等を通じ関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、看護師と密に連携を図っている。重度化については、入居時に説明同意をいただいている。週末に関しては、早い段階で、ご家族様と何度も話し合い、ご本人の思い、ご家族様の思いを丁寧に確認しながら、終末期の在り方の方針を確保面と共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医の看護師及び訪問看護師により急変時や事故発生時の対応について指導を受けるとともに、個々の、外部研修への告知案内を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民・施設の方と共に、年2回の消防訓練の実施。また、避難場所の一部にホームの駐車場開放の周知したうえで 地域との協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇研修を行ったうえで、スタッフ間での声かけを実施している。また、個々の性格把握し、スタッフ間にて共有し、個人の誇り、プライバシーを損ねないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で表された事柄、また感じた事などは、さりげなく自己決定できるよう支援し、自己決定されたことを完結できるよう努めている。例えば、買い物などのご自身で使われる食器を選ばれるなど、ご自身の身の回りの物を選択できるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の、その日の状況に合わせ、何がいま必要かを考えることは素より、何がしたい、どうしたい、を聞いたり、または感じ取りながら、その方の希望に沿うような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に洋服などをご自身で選んでいただくことは素より、紙の乱れ、着衣の乱れにも細かく配慮している。また、お化粧をされる方へは、さりげなく化粧道具をお渡しするなど		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットにキッチンを設け、調理の音、においなど五感を刺激でき、時には味見をしていただきこともある。食事の盛り付けには、ご入居者様中心に行い、配膳、下膳もできる方は見守りの中行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量チェック表を活用しながら、1日を通してのじょうきょうが把握できるようにしている。また、お一人お一人の状態をスタッフ間にて情報共有している。嚥下の強弱へも配慮し見守りながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一度、歯科衛生士による口腔内のチェックをはじめ、毎食後にご自身でできる方はご自身で歯磨きを行い、最後の仕上げが必要な方や、介助が必要な方へはスタッフがお手伝いさせていただきよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ここに排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握。また、カンファレンスをもとに、声かけの上誘導を行っている。立位が取れる方はできる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との連携による便薬の活用。またラジオ体操、ヨーグルトジュースなどを中心に支援させていただく。頑固な便秘にならないよう、早めにかかりつけ医への報告し指示を仰ぐ。個々の状況に合わせた運動、散歩などの支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自ら入浴希望がある方は、時間に関係なく入浴いただけるよう配慮している。入浴へ促されるような声かけ「お風呂の準備ができました、入りましょうか？」「温まりに行きませんか？」など声かけに配慮し、ご本人のタイミング、希望と浴うことができるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センター方式から、ご本人の生活習慣を周知したうえで、昼寝、排泄のタイミングなどをさりげなく声かけさせて頂いたり、あくまでもご本人のその時の思いをくみ取りながら支援させていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による、薬の効能、また重要性の説明を受け、薬の目的また、重要性を理解したうえで服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援などがスムーズに行えるよう配慮しながら、ご自身自ら行えるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の外出への希望をなるべく尊重したうえで、日常での、洗濯干し・玄関の掃除・お花の水やり等で気分転換を図りながら、ご本人の買い物も率先して行っている。また、何か食べたいとの希望には、喫茶店・外食等に出かけられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が、現金保持することへのリスクをスタッフは十分理解しており、そのうえでご本人様にどうしたら現金保持できるかを常に意識しながら。買い物時にご自身で判断できる方へは、ご自身での支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が、電話を掛けたいときはいつでもかけてよいかを、入居時にご家族様からは是非をいただいている。それを踏まえうえて、ご家族様の協力の元、ご自身が欠けたいときは自由にかけただけけるような環境づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル及びソファを時々に応じ移動させ、ご自身が自由に行き来できるよう配慮している。また、庭に咲いた花を摘んできて飾るなど、少しでも季節感を感じていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の気持ちの変化に合わせて、テーブルの配置及び、ソファの設置など工夫をし、個々の時間を有効に使えるよう支援している。また、気の合う方同士、それぞれの居室で過ごすときなどは、店頭等に配慮しながら見守りの支援をさせていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた身の回りの物、食器・寝具・筆筒など、ご自身が慣れ親しんだものをご持参いただいている。居室内でのレイアウトはご家族の希望とご本人様の意見を極力繁榮させ、快適な空間が作れるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室には、表札を設け、何かの場所を探されているときは、さりげなく声をかけたり、目的地へ誘導し、ご本人のプライドを傷つけないよう支援している。		